

学校新聞 芥川

「よかった」が98% 39期 2年生 修学旅行 39期生担任団



十月三〇日から十一月二日まで、二年生が台湾へ修学旅行に行きました。台湾の地理や文化、生活習慣などのレポートを作成し、台湾の方をお招きしての講演、社会科学や家庭科の授業により期待を膨らませていざ出発。飛行機が二便に分かれたため、旅程の半分近くは以下の内容を異なる日時に実施しました。

【移動・ホテル】

修学旅行は飛行機での移動から始まりました。多くの人にとって海外旅行は初めての経験です。ボディチェックやパスポートコントロール、初めて尽くして朝からドキドキの連続です。前の人の行動を注意深く観察し、そのまねをしてノミースで通過をめざします。なんとか飛行機に乗り込み、隣に座る友達と顔を見合わせて大笑いしている人がたくさんいました。早便の機内食はビーフン。少しクセがあった、これから外国に行くという感じがその匂いからも実感されました。ホテルに到着してみると、その豪華さにまさにテンションMAX。大喜び。みんな一体何時に寝たのでしょうか。女子生徒のなかには、同室の友達とお揃いのパジャマで、アメリカの青春ドラマよろしく、楽しい夜を過ごした人もたくさんいたようです。

【中正記念堂・九份・夜市】

今回の台湾修学旅行では、日時は異なりますが全員が中正記念堂・九份・夜市を訪れました。台湾の国父である蒋介石の偉業をたたえ造営された中正記念堂は、とても広大な公園の中に立派な建造物が立ち並び、その気品と貫禄に圧倒されました。心配していたお天気もなんとか

雨にはならず、全クラス集合写真を無事に撮ることができました。山の斜面の古い家並み、石段や石畳の小道が続き九份は、本校の修学旅行で夜に訪れたのは今回が初めて。昼間とは異なり、たくさんの赤い提灯が灯り、幻想的な夜景を楽しむ事ができました。特に、映画「千と千尋の神隠し」のモデルになったといわれるお店の前では、生徒達が写真を撮るとり歓声をあげていました。



【B&Sフィールドワーク】

二日めの午前中はこの修学旅行のプログラムの中で、最も生徒からの満足度が高かったB&Sフィールドワークに取り組みました(帰阪後11月7日に実施したアンケート結果より)。生徒たちは台北駅・淡水駅それぞれに分かれ、日本語を学習している大学生さんたちと対面し、班に分かれて散策を行いました。日本語・英語に加え、数えるほどしか知らない中国語、さらには気合のボディランゲージも駆使してコミュニケーションを図っていました。生徒たちは、事前に調べていた観光スポットやお勧めグルメを求め、大学生にエスコートしてもらい、食事やショッピングを楽しみながら、異文化交流を深めていきました。「挨拶やお礼でコミュニケーションが一気に和むと感じた」「英語に苦手意識があったけど、間違いなど気にせず、積極的に話すことができた。」などの生徒の声を聞くと、海外に行つて良かったなと実感します。

【コース別体験学習】

三日め午前にコース別で体験・観光を行いました(内訳:故宮博物院、エビ釣り、天燈上げ、小籠包づくり、台湾シャンプー、足つぼま

ッサージ)。私はその中の台湾シャンプーコースに付き添いました。生徒は初対面の台湾の方との緊張感で、始めは少し不安な表情をしていましたが、頭皮を中心としたマッサージやシャンプー洗いによるリラックス感も合わさって、施術が進むにつれ和やかなムードとなり、笑顔も見られるようになりました。最後の方には施術して頂いた方に自分で写真をお願いする生徒もいて、楽しい経験ができたと思います。私もシャンプーをしてもらいましたが、もしかして一番私が不安げな顔をしていたかもしれせん。【台湾の学校との交流】

三日めの午後は、長いお付き合いをさせていただいている、萬芳高級中学校との学校交流会を行いました。クラスバスに乗って学校へと向かいましたが、出迎えから手厚い歓迎を受けました。体育館で行ったセレモニーでは、本校の有志生徒が中国語で学校紹介を行いました。また、芥川高校の和太鼓部・ダンス部、萬芳高級中学校のダンス部・軽音楽部によるパフォーマンスはどれも素晴らしく、会場を盛り上げてくれました。セレモニーが終わると、各クラス二つの班に分かれて、部活動体験をしました。初の試みで、部活動によっては言葉の壁に苦しみながらも生徒たちはたくましく交流を行つてくれたと思います。



【台湾での食事】

一日めと二日めは入れ替えて、バイキングに行くクラスと、小籠包などの飲茶料理を食べに行くクラスに分かれました。とても広いバイキング会場では、どこに何があるのか探すのに必死。またデザートの前には長蛇の列。出発時間ギリギリまで食べている生徒もいました。飲茶料理では、本場の小籠包をアツアツの湯気とともにいただきます。満足げな生徒の姿を多く見ることができました。三日めの昼食は、しゃぶしゃぶ。日本のもの

とよく似ていましたが、ポン酢がないなど、台湾らしさを感じることもできたのではないのでしょうか。夕食は、ホテルにて。本格的な広東料理が次から次へと運ばれてきて、食べきれなかったテーブルも見られました。四日めの飛行機に乗る直前の昼食では、炒飯おかわりし放題ということで、「四回もおかわりした!」といったテーブルもありました。台湾ならではの香辛料を感じて、生徒にとって食べにくいものもあつたようですが、全体を通して、おいしくいただいていた生徒が多かつたように思います。

【全体レクリエーション】 三日めの夕食後、結婚式が行われるかなのような豪華で広い会場で、学年全体のレクリエーションを行いました。学年全員が顔を合わせる数少ない時間ということもあり大いに盛り上がりました。まずは有志による漫才とダンスです。勉強やクラブ活動にいがしい合間をぬって、必死に練習を重ねた成果を發揮してくれました。漫才では笑い声がうずまき、ダンスでは手拍子が巻き起こるなど大盛況でした。有志のあつは、クラス対抗のクイズとクラス代表が箱の中身を当てるゲームをしました。三日めとあつて疲れも心配していましたが、どこ吹く風とばかりに正解や不正解に一喜一憂していました。修学旅行の時間の中でも最も学年が丸となった時間の一つで、最高の思い出の一つに数えられることでしょう。

初めての海外・集団生活・集団行動ということで、不安な生徒もいたと思います。行つてみると学校交流やB&Sのみならず、買い物やトイレの場所を尋ねるときなど生徒たちは結構英語を使っていました。国際感覚を養えた、学校交流は有意義だった、という生徒も非常に多く見られました。集合時間や身だしなみのルールが守れない生徒が少し多かつたのですが、アンケート結果から台湾修学旅行がよかつたという生徒が非常に多かつたことが、今回の修学旅行の成果であると感じています。

修学旅行の様子は本校ホームページの校長ブログでご覧いただけます。

